

〈PTA全体委員会（10月10日）報告〉

■ [平校長\(PTA名誉会長\)より学内報告 1](#)

■ [木村PTA会長より挨拶 2](#)

■ [父母の会活動報告 3](#)

■ [分科委員会 3](#)

- └ 総務委員会
- └ 新聞委員会
- └ 会報委員会
- └ PTA活動推進委員会
- └ 行事委員会

■ [編集後記 6](#)



平校長(PTA名誉会長)より学内報告

麻布学園PTA役員の皆さま、こんにちは。その後、お変わりなくお過ごしでしょうか。先月は来る日も来る日も雨降りで憂鬱な日々を過ごしましたが、10月に入って柔らかな日差しも入るようになり、キンモクセイの香りが漂い、柿の実も色づきはじめ、ようやく秋らしい日々を迎えることとなりました。学級閉鎖が続いたインフルエンザも今月に入りどうにか終息しました。また、一日順延となったものの10月3日には無事、第71回運動会を開催することができました。

グラウンド内で生徒らの澆漑と躍動する姿を眺めるのは素晴らしいものがあります。web配信によりご家庭で競技の様子をご覧になった方も少なくないのではないのでしょうか。競技に参加した生徒諸君はもちろん、開催を支えた運動会実行委員会や各組応援団の諸君の頑張りも讃えたいと思います。来週14日からは高校2年生が、それ以外の学年は15日から学年行事期間となります。晴天の下、しばし学校を離れて仲間と共に楽しく有意義な時間を過ごしてもらえればと思います。私も15日は江原素六先生の墓参に中学1年生の生徒諸君と沼津に赴きます。去年は改装のため訪れることができなかった明治史料館（江原素六記念館）の見学も行われるので、新入生にはぜひ創立者の沼津での数々の業績を学んでほしいと思っています。

さて、去る10月10日は全体委員会の開始と時を同じくして第3回学校見学会が開催されました。校長はそちらでの挨拶等のため全体委員会は失礼させていただきました。ご容赦ください。皆さまのご来校時、たくさんの受験生、受験生保護者と一緒だった方もいらっしゃるのではないかと思います。今回は小学3年生以上のご家庭を対象としたところ2600名もの応募がありました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

一方、3月に卒業を控える高校3年生は1月の大学入学共通テストの出願も終わり、これから本格的な受験シーズンとなります。毎年2学期の始業式で校長は彼らに対して「2学期後半からは1日16時間勉強せよ」（つまり、寝ている時間以外はすべて勉強ということ）とメッセージを発していますが、今年は始業式が大雨予想で休校となったため、このメッセージの発出ができませんでした。来月の保護者懇談会で高校3年生のPTA役員の皆さまから各クラスに伝えて頂けるとありがたいです。

高校2年生以下の学年も気候が過ごしやすくなるこの2学期は勉学、読書、スポーツにと充実した日々を過ごしてほしいと思います。そして、保護者の皆さま方もそれぞれに心豊かな時間を過ごしていただければと願っております。

木村PTA会長より挨拶

都心は37日連続の雨となりました。運動会の予行演習も何度も延期し、本番も一日延期となりましたが、10月3日、天気にも恵まれ、無事、運動会が開催されました。土曜日ということもあり、学校に足を運んで直接観戦された保護者や、ライブ配信を通じて応援された保護者も多かったのではないのでしょうか。会報委員会や新聞委員会の委員の皆様も、運動会の撮影・取材、大変お疲れ様でした。金曜日の平日開催に備え、貴重な休暇をとっていただいた方もいらっしゃったと思います。ご尽力に心より感謝申し上げます。

さて、麻布学園のOBで、「北の国から」などで著名な脚本家、倉本聰さん（1953年卒）が9月18日に91歳でお亡くなりになりました。PTA会報第51号の「OBインタビュー」では、倉本さんを取り上げています。インタビューの中には昔の麻布に関する興味深い話や東大合格にまつわる面白いエピソードなどもあるのですが、私がとりわけ気になったのは、以下のくだりでした。

「僕はあと十年は生きないだろうから、滅亡の日を目撃しないで済むだろうと思っていますけれど、皆さんは目撃しちゃう可能性の方が高い。じゃあ、その滅亡からどこまで逃れられるかと言ったら、都会暮らしをやめることですね。まず自分が逃げなくちゃ。それから、衣食住を自分の力ですること。要するに、人間が、我々が本来持っている、自分の体の中に持っているエネルギーで暮らすということをしなくちゃダメですね。」

このインタビューは2023年9月17日に行なわれたものです（富良野まで取材に行かれた当時の会報委員には今更ながら頭が下がります）。ウクライナ侵攻など世界中で紛争が多発し、異常気象が「異常」とまで言えなくなり、AIによる「暴走」も懸念される中で、倉本さんのメッセージをじっくり受け止めたいと思います。

運動会に続いて、今週は各学年、学年行事が予定されています。机を離れますが、できたらスマホからも離れ、いろいろな生の体験を通じ、生きる力を育んでほしいと思います。

父母の会 活動報告

9月12日(土)明治学院高等学校のチャペルにて「私学振興拡充 第2支部大会」が開催され、本校からは平校長先生・高橋先生・中 1保護者34名 及び父母の会担当2名の38名で出席いたしました。港区15校、総動員数444名にて都議会議員の先生方に直接要望事項をお伝えし、満場一致で決議をいたしました。

また、10月27日(火)には共立講堂にて「私学振興予算 要望期成大会」が、11月4日(水)には文京シビックホールにて「私学振興全国大会」が、11月24日(火)にはアルカディア市ヶ谷にて「私立中学高等学校協会創立80周年および東京都私立中学高等学校父母の会中央連合会創立 60周年記念式典」が開催されます。

今後も私学教育の更なる充実に向けて活動して参りますので、引き続き皆様のご支援、お力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

分科委員会

総務委員会 (PTA総会およびPTA全般の活動支援)

12月に開催予定のPTA全体交流会の準備を着々と進めています。PTA役員の皆様にお持ち帰り頂く記念品の選定、催し物の企画、飾り付けの手配などに着手しています。

PTA役員の皆様の交流・懇親を深めていただけるような会を目指して頑張って参ります。お楽しみに！

分科委員会

新聞委員会 （年3回発行の「麻布PTA」の編集・発行）

リハーサルが何度も中止、本番も延期、雨に翻弄されましたが、無事に運動会が開催され盛り上がりましたね。PTA新聞第2号では運動会をはじめ、学年行事や国際交流を特集し、保護者の皆様にも学校の様子をお届けできるよう編集を進めています。2学期終業式の日配布予定ですので、楽しみにお待ちください。

会報委員会 （年度末発行のPTA会報誌の編集・発行）

会報委員会では、保護者の皆さまに麻布でのご子息の姿をより身近に感じていただけるよう、充実した紙面づくりに努めております。

寄稿文やイラストをお寄せくださった皆さま、誠にありがとうございました。特集でも多くの生徒の皆さんに取材にご協力いただき、紙面にご登場いただく予定です。

引き続き、「麻布の日常」を切り取った写真も大募集中です！

生徒の皆さんからも、保護者の皆さまからも、ご応募をお待ちしております。

会報誌で紹介したい写真がございましたら、ぜひ下記のメールアドレスまでお気軽にお寄せください。

azbkh54iincho@gmail.com

分科委員会

PTA活動推進委員会（学園サイト内PTAページ管理運営、次期会長候補の選考）

PTA会長選の公募に際し、皆さまにご協力いただき、誠にありがとうございました。引き続き、次年度会長候補の推薦を進めてまいります。

次年度のPTA委員募集につきましては、活動への理解を深め、十分にご検討いただけるよう、例年より早い時期から広報活動を行い、案内チラシをお届けする予定です。

また、PTA行事のお知らせをWebサイトに掲載しております。ぜひご覧ください。

行事委員会（文化活動の企画・運営）

行事委員会では各イベント開催に向けて活動を進めております。

【麻の葉セミナー】

日程：2026年11月21日（土）13:30-

登壇者：辻次 夕日郎氏 麻布学園 2013年卒

内容：麻布での学生時代の経験や出会い、漫画家を志したきっかけ、好きを力に変えるヒントなど。

自分の個性や興味をどのように未来に繋げていくのか、創作のヒントなど、生徒の皆さまにも保護者にも響く内容になるかと思います。

【34th ファミリーコンサート】

日程：2027年2月20日（土）

参加希望の全ての団体にご参加いただけることになりました。

例年通り、1部バンド、2部クラシック、3部ダンスの3部構成になります。

ファミコン公式Xで、最新情報を発信中です。

https://x.com/azb_famicon

お楽しみに 

【リサイクル販売会】

例年、制服などのリサイクル販売は大変盛況である一方、品数が少なく、すぐに完売してしまい、皆さまのご要望に十分にお応えできておりません。

保護者の皆さまにとってもご子息の大切な思い出の品かと思いますが、これから麻布学園での生活を始める新入生のためにも、ぜひご協力をお願いします。

回収日：2026年11月14日（土）保護者会前 8:30-9:00 事務室前

どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

2026年度第3回目のPTA通信をご覧になっていただき、ありがとうございます。

始業式早々台風の影響で休校となり、また学級閉鎖などもあり、バタバタと始まった印象の2学期ですが、運動会や学年行事などもあり、この先もあっという間に過ぎていきそうですね。学年行事に関しても一向に息子本人からは詳細がこないため、我が家ではしっかりお弁当の用意もしてしまっていました。

さて、恒例の(?)息子との会話シリーズですが、先日息子と小さな諍いがありました。その際衝撃だったのが今まで散々怒ってきたつもりが息子には怒られていた自覚がなかったということ。こちらは怒ってばかりになっていないかなと自問して反省すらしていたのに、「そこまで怒られたことないと思ってるよ」としれっと言われ、今まで彼に注いだエネルギーはなんだったのかと愕然としてしまいました。「怒る」「叱る」というのはとても体力がいるし、できればできる限りしたくないことだと考えています。そのため、基本的には理路整然とした伝え方をするように心掛けているのですがその結果、「注意」として伝わっていて、「注意を受けた、理解した」と受け止められていたようです。ではなぜ「注意」ではなく、「怒っている」と伝えたかったのか。そこにはこちら側の「怒っている」から「謝ってほしかった」という気持ちがあったのかもしれない、そう気づいた時、「自分は傷ついていて、傷ついた気持ちも理解してほしい」と期待していたのだと気づき、ハッとしました。いつの間にか子どもを対等な存在としてみていたからこそその期待かもしれません。

そもそも「謝る」という漢字は、口から発する「言」と、矢を放つ「射」から成り立っています。張り詰めていた弓から矢を放つように、「言葉にして外に出すことで、心の緊張を緩める」という意味がこの文字には込められているそうです。また、日本語の語源では、「こじれて歪んでしまった関係を、言葉を尽くしてまっすぐに戻す」という意味を持っているそうです。そう考えると、「謝る」という行為は決して勝敗や降伏の言葉ではなく、お互いの関係性を大切にするための、優しく、そして尊い行為なのだと感じました。ついつい感情的になったり、逆に理屈で詰めすぎてしまったりする日々ですが、子どもを一人の人間として尊重しているからこそ、ぶつかることもあるのだと少し心が軽くなった気がします。こじれた糸を言葉で丁寧に解きほぐしながら、子どもと一緒に、一歩ずつ成長していけたらと思います。